

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末



第六部 罪論

20章 罪の性質と源

21章 罪の結果

22章 罪の重大性



第20章 罪の性質と源

1. 罪を議論することの難しさ
2. 罪の性質に関する聖書の見方
3. 罪の源



第1節 罪を議論することの難しさ

1. 罪という主題は余り喜ばしいものではない
2. 罪という概念は見知らぬ概念である
3. 罪とは外的で具体的なものと考えられている

第2節 罪の性質に関する 聖書の見方

1. 罪は内的な傾向である
2. 罪は反逆・不従順である
3. 罪は靈的不能を伴う
4. 罪は神の基準の不完全な成就である
5. 罪は神を置き換えることである

第3節 罪の源

第1項 多様な概念

罪の源は何か？ - 治療に必要

1. F・テナント
 - 動物的性質である
2. R・ニーバー
 - 人間の有限性に起因する心配である
3. P・ティリッヒ
 - 存在の基盤からの離間に関係している
4. 解放の神学
 - 経済的闘争にある
5. H・S・エリオット
 - 個人主義的競争

第3節 罪の源

第2項 聖書の教え

1. 罪は神によって引き起こされない
2. 欲求の適切さの問題がある
3. 人間の能力、選択肢
4. 自然な欲求と誘惑となる領域
 1. 物事を楽しみたい願い
 2. 物事を手に入れたい願い
 3. 物事をなしたい願い
5. 満足する適切な方法と神の課せられた制限
6. サタンによる合法的な誘惑
7. 外部からの誘導が含まれる
8. 肉と呼ばれるものの存在
9. 罪の源は治癒について語りかけている